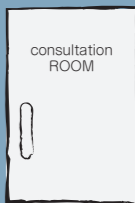




歯科 医長
大竹 博之
おおたけ ひろゆき

きょうは
歯科
です



こんにちは
診察室です。

白い被せ物かぶものは保険で どこまでできるのか

「ここから」は診察室です。バックナンバーがご覧いただけます。



はじめに

むし歯が進行して穴があいた状態や外傷などで歯の形態が失われたときに、歯は自然に元に戻ることはありません。そのような場合は金属や樹脂を用いて形を修復し、歯のかみ合わせや見た目を回復します。残っている歯に部分的に詰める場合と完全に被せてしまう場合があります。

今回は後者の図1のような被せ物(冠かん)についてです。

かつては保険診療でできる白い歯の被せ物は主に前歯のみで、奥歯は金属でした。現在は奥歯の一部も白い被せ物で修復可能になっています。希望される患者さん



図1 金属冠とCAD/CAM冠

多いので、保険適応部位について簡単に説明します。
なお抜いて歯が失われた状態では保険適応が複雑となり、紙面の都合上説明しきれないので割愛します。

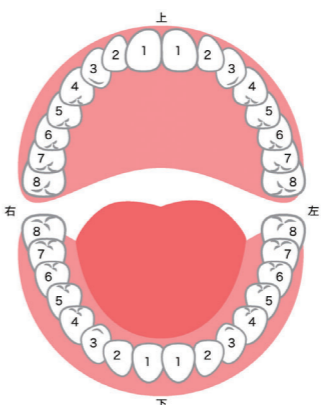


図2 歯番

最初に歯の位置の表し方を示します。図2のように、歯科診療ではそれぞれの歯に番号をつけています。ヒトの歯は28本(親不知おやしらずがある場合は最大32本)あり、上下左右それぞれに中央から奥に向かって1〜8の数字が割り振られています。それぞれ1…中切歯ちぎせうし、2…側切歯そくせうし、3…犬歯けんし(糸切り歯)、4…第1小臼歯だいしつこうしゅうし、5…第2小臼歯、6…第1大臼歯、7…第2大臼歯、8…第3大臼歯(親不知、智歯ちし)といった名称があります。以降、歯の番号(歯番)で示すので、図2を見ながら確認してください。

被せ物の種類

以前から1〜3番は金属の被せ物の見える部分を歯の色の樹脂で覆った白い被せ物(硬質レジン前装冠:図3)で治せます。1〜5番には硬質レジンジャケット冠(HJC:図4左)という歯の色の樹脂で作る被せ物があります。どちらも歯型を採って作った石膏

模型を用いて歯科技工士が作ります。



図3 左上1番の硬質レジン前装冠

CAD/CAM冠(キャドキャム冠:図1右、図4右)とは「コンピュータによる補綴装置の設計(computer-aided design=CAD)と加工装置(computer-aided manufacturing=CAM)とにより製作されたクラウン。鑄造操作や前装材料の築盛にやらないため、物理的特性の優れた、均一かつ高品質な補綴装置を製作できる。チタン、コバルトクロム、陶材、コンポジットレジン、シルコニアなど多様な材料が用いられる。(歯科補綴学専門用語集より)」となっています。つまり、例えば「コンピュータで設計し、

機械が材料の塊を削って作った歯の被せ物」です。

そして保険診療では平成26年度の診療報酬改定により、均質性及び表面性状を向上させたハイブリッド型コンポジットレジンブロックから削り出された4、5番の白い被せ物であるCAD/CAM冠が保険導入されました。順次適応が拡大されて、現在は1〜6番をCAD/CAM冠で修復することが可能となっています。ただし、6番については条件があります。「上下左右の7番が4本全て存在すること。左右の上下7番がしっかり噛んでいること。かみ合わせ時の力が強くかからないこと」です。



図4 HJCとCAD/CAM冠

先述したようにHJC(図4左)は歯科技工士によって作られます。対してCAD/CAM冠(図4右)はコンピュータで設計して、既存のレジンブロックから専用の機械が削り出して作ります。材質が均一ということの後者の方が耐久性はあるようですが、見た目に制限があります。CAD/CAM冠は数種類の色の違うブロックがあり、周囲の歯に馴染むものを選択することになります。対してHJCは歯科技工士がある程度は見た目に対応できるという有利な面があります。
参考に図4に実際の例を示します。同一人物ではありませんが、どちらも平均的な色だったので比較してもあまり違いがないように見えます。どちらを選択するかはかみ合わせや残っている歯の状態、患者さんの希望を考慮することになります。

おわりに

被せ物の種類、材料によって必要となる厚みが異なります。例えばCAD/CAM冠のかむ面の厚み

は1.5ミリ以上となっています。つまりかみ合う歯との間に1.5ミリの隙間が必要となります。すり減って短くなってしまっている歯などは隙間が確保できないので、より小さな厚さで治せる金属を選択することになります。
歯ぎしりやくいしばりといった習慣のある方もCAD/CAM冠は避けるべきと考えます。
何はともあれ条件はありますが、「白い被せ物は保険でどこまでできるのか」の答えは1〜6番で可能ということになります。
ただし保険の適応部位であっても、必ずしも白い歯の被せ物ができるかというところではありません。かみ合わせや口の中の状態などを十分考慮し、患者さんが丈夫さを重視するのか、見た目を重視するのかなどの希望をなるべく叶えるように選択しているのが現状です。そのような場合は自費の被せ物を含め、ご相談させていただきたいと思います。